

富山県上市町におけるテングコウモリの観察例

村井 仁志

(財)富山市ファミリーパーク公社

Observations of Japanese Tube-Nosed Bats in Kamiichi Town,
Toyama Prefecture

Hitoshi Murai

Toyama Municipal Family Park Zoo

はじめに

テングコウモリ *Murina leucogaster* Milne-Edwards, 1872 はインド北東部、中国、シベリア東部および日本の北海道、本州、四国、九州に分布する食虫性コウモリである(前田, 1994)。本種は本来樹洞で休息するが、洞穴も利用することが知られている(前田・松村, 1997)。

富山県内における本種の確認記録も、大山町亀ヶ谷(ねいの里, 1984)、宇奈月猫又(山本 私信)、魚津市片貝川東又谷、上市町大熊谷および小又谷、大山町和田川有峰林道、大沢の町長棟川薄波(村井・穴田, 1993)と少ない。

今回は、筆者が富山県内における人工洞を利用する翼手目の調査において得られたテングコウモリの観察記録を追加するものである。

調査地および調査方法

調査は富山県の南東部、立山連峰のふもと早月

川上流に位置し(図1)、標高約620mおよび約520m地点の発電所管理用冬期歩道2ヶ所においておこなった。この冬期歩道は総延長がそれぞれ245m、304m、巾約2m、高さ1.8から3m、内壁はコンクリートの部分と岩盤が露出した部分に分けることができた。調査地周辺の植生は落葉広葉樹とスギの人工林が主体であった。

調査は1996年と1997年の2年間に、それぞれ積雪のない4月から11月にかけて、基本的に毎月2回次の手順で実施した。調査地の冬期歩道内を徒歩で歩き休息(以下roost)しているコウモリを同定し、テングコウモリをカウントした。同定は前田(1994)に従った。テングコウモリと同定したものについて、単独(以下Solitary)でroostしていたか複数個体の群れ(以下Cluster)でroostしていたか、Clusterの場合はその個体数(以下Cluster Size)を記録していった。

結果および考察

調査期間中にテングコウモリが確認されたのは1996年5月24日、6月7日、6月20日、7月11日、7月30日、1997年5月28日、6月10日であった(表1)。確認された個体数は1996年にのべ7個体、1997年にはのべ8個体、合計15個体であった(表1)。2年間通して4月から11月までの8ヶ月調査しているなかで本種が発見された日が5月から7月の3ヶ月に集中しているのはとても興味深く(表1)、5月と6月は本調査において2年間にわたって確認され、6月ののべ観察個体数は9個体と5月の4個体7月の2個体に比べ最も多かった(表1)。庫本・内田(1981)は本種の妊娠メス2個体を5月に山

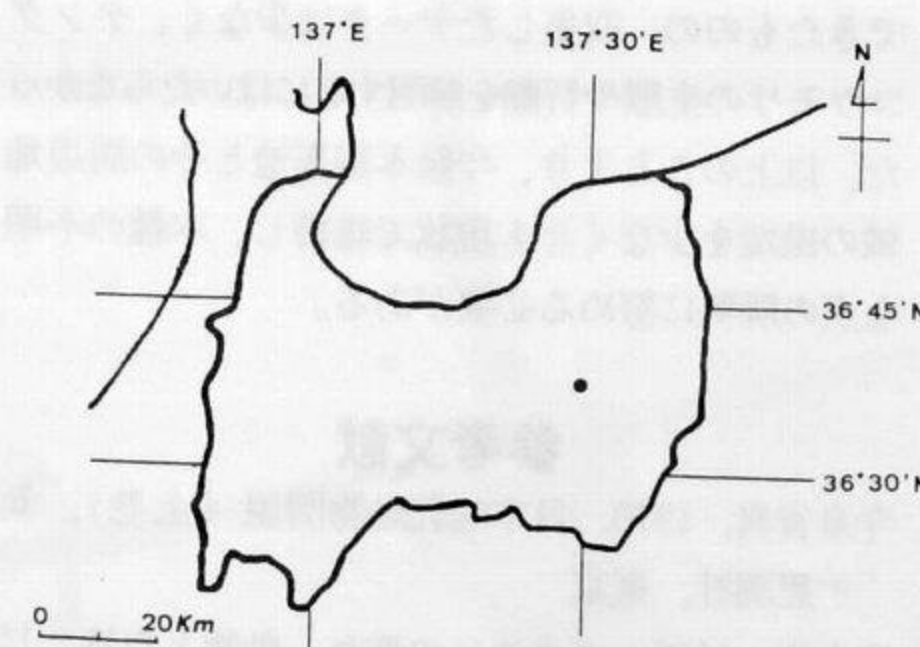


図1. 調査地

表1. 上市町馬場島において確認したテングコウモリ *Murina leucogaster*
(個体数とCluster Size)

確認年月日	1996					1997		Total
	5/24	6/7	6/20	7/11	7/30	5/28	6/10	
Solitary	1	0	1	1	1	1	0	5
Cluster Size 2	0	0	0	0	0	1	0	1
Cluster Size 3	0	1	0	0	0	0	0	1
Cluster Size 4	0	0	0	0	0	0	0	0
Cluster Size 5	0	0	0	0	0	0	1	1
Total No.	1	3	1	1	1	3	5	15

口県内の洞穴にて捕獲しており、森井(1985)はメスを5月にオスを10月に、香川県内の人工洞において採集している。村井・穴田(1993)はテングコウモリを7月と8月にのべ8個体、冬期歩道においてroostしていたのを確認している。庫本(1987)は、テングコウモリはもともと森林棲のコウモリで、早春のころ洞窟に入って休眠するものがあるとしている。今回の調査結果はこのことと一致するものと考えられる。

確認したテングコウモリのCluster Sizeは、Solitaryを5個体と3つのClusterを観察した(表1)。3つのClusterのSizeはそれぞれ2個体、3個体、5個体であった。庫本・内田(1981)、森井(1985)村井・穴田、(1993)はいずれも本種をSolitaryで採集もしくは確認している。船越(1988)は本種を単独性の種に分類し、前田(1994)は10頭を越える群れはほとんど見つかっていないとしている。また、今泉(1970)、庫本・内田(1981)は1から数頭で見つかることが多いことを報告している。今回の調査におけるCluster Sizeの結果についても同様に考察できる。

森井(1985)は本種の採集例数が少ないものの、ほぼ同一地点でのみ採集されていることを指摘しており、前田・松村(1997)本種の分布が限られているとし、希少種に相当するものとしている。また、現在のところ本種が確実に観察できる場所も、維持されている繁殖集団もわかっていない(前田・松村, 1997)。また、筆者の知る限りでは、テングコウモリの生態や行動についての詳細を記載した報告は見あたらない。本調査において2年間を通してほぼ同じ時期に本種を確認することができたものの、収集したデータは少なく、テングコウモリの生態や行動を解明するにはいたらなかった。以上のことより、今後本調査地とその周辺地域の環境を少なくとも現状で維持し、本種の不明な点の解明に努める必要がある。

参考文献

- 今泉吉典, 1970. 日本哺乳動物図説(上巻), 新思潮社, 東京.
庫本正, 1985. コウモリの群れ, 動物と自然, 15(10): 7-11.
庫本正, 1987. 洞窟棲コウモリの生態, 採集と飼

- 育, Vol. 49(10): 433-437.
庫本正・内田照章, 1981. テングコウモリ新生獣の成長, 秋吉台科学博物館報告, 第16号, 55-69.
船越公威, 1988. 翼手類の社会構造, 哺乳類科学, 28(1): 1-11.
自然博物館センター ねいの里, 1984. ねいの里だより, No.9.
前田喜四雄, 1994. 日本の哺乳類: 阿部永監修, 東海大学出版, 東京, pp195.

- 前田喜四雄・松村澄子, 1997. レッドデータ 日本の哺乳類編: 日本哺乳類学会, 文一総合出版, 東京, pp279.
森井隆三, 1985. 満濃池周辺の翼手類(哺乳類), 国営讃岐丘陵公園(仮称)の動植物現況調査報告書, 香川動植物の会, 39-46.
村井仁志・穴田哲, 1993. 富山県の人工洞における翼手類について, 富山の生物, 第32号: 24-29.